

令和4年度英語教育改善プラン推進事業【北海道】

☑ 児童生徒の発信力強化のための効果的な指導・評価

☑ 学校種間連携

☑ 英語担当教師の指導力・英語力の向上(小学校担当教師の指導力向上)

当該地域における英語教育の課題

①校種間連携を図った「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の作成

児童生徒と目標を共有し、日常の学習指導や評価に関連付けた活用が十分でない状況が見られるほか、校種間の系統性を踏まえた目標の設定に課題がある。

- ・「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況
(設定) 小：94.1%、中：100.0%、高：100.0%
(公表) 小：42.3%、中：48.4%、高：69.0%
(把握) 小：74.0%、中：81.2%、高：82.3%

②指導と評価の一体化の実現に向けた学習評価の改善

外部検定試験のスコアや「CAN-DOリスト」に基づくパフォーマンステストの結果などを活用し、児童生徒の英語力を適切に評価する指導に課題がある。

- ・学習到達目標の達成状況を把握している学校
小：74.0%、中：81.2%、高：82.3%
- ・パフォーマンステストを実施している割合(中、高はスピーキングテスト・ライティングテスト両方実施した割合)
小：99.2%、中：96.6%、高：58.0%

③ICT端末を効果的に活用した言語活動の充実

ICT端末を効果的に活用し、英語による言語活動を中心とした授業改善の推進に課題がある。

- ・児童生徒が電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動を行うため、ICT機器を活用した学校の割合
小：6.0%、中：10.0%、高：20.7%
- ・児童生徒が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話をする活動を行うため、ICT機器を活用した学校の割合
小：3.2%、中：4.5%、高：11.5%

④デジタル教科書の効果的な活用

デジタル教科書を活用することが目的化している場面が見られ、デジタル教科書を効果的に活用した言語活動の充実に課題がある。

- ・児童生徒の授業において英語による言語活動を行う時間(半分以上の時間言語活動を行っている)
小：95.6%、中：82.5%、高：73.1%

〔出典〕R3英語教育実施状況調査より

<実施内容>

◇ オンラインを活用した研修「E-Lineセミナー」の実施【小・中】(課題①②④)

- ・各地域の中核となる小・中学校の英語担当教員を対象(以下、「中核教員」として、本道の課題に即した研修テーマ(「CAN-DOリスト」の改善等を図る「校種間連携」、児童生徒の英語による発信力の強化を図る「言語活動の充実」、パフォーマンステストの改善充実を図る「指導と評価の一体化」、交流・遠隔授業やデジタル教科書の活用を促進する「1人1台端末の活用」)に基づき、説明・協議等を年3回実施し、実際の授業を通して指導力の向上を図った。
- ・道内の小・中学校の英語担当教員を対象とした研修会を開催し、中核教員の実践発表により、本セミナーの成果普及を図った。

◇ 優れた実践等をオンライン上で共有する「E-Netコミュニティ」の構築【小・中・高】(課題①②④)

- ・Googleドライブを活用し、中核教員が日常的な実践について協議・交流を行ったり、実践や教材等を共有したりすることができる仕組みを構築した。
- ・全道の小学校外国語専科教員とGoogleドライブ上のデータを共有し、各学校の英語教育の改善充実を図った。
- ・学校教育指導訪問や研修会等を通じて、指導主事が各学校に情報提供や指導助言を実施し、指導力の向上を図った。

◇ 外部専門機関や民間企業と連携した教員研修の実施【小・中・高】(課題①③④)

- ・小学校英語教育学会で会長を務めていた北海道教育大学教授を招聘するなど、大学と連携したオンライン研修会を実施し、小学校外国語専科教員の指導力向上を図った。
- ・「E-Netコミュニティ」及びWebページ等を活用し、英語担当教員の取組や、先進的な実践事例等をオンライン上で共有した。
- ・中・高等学校の英語担当教員を対象とした「英語力ブラッシュアップセミナー」(オンライン研修会)を年4回実施し、教員の英語力向上を図った。
- ・研修成果を把握するため、特別受験制度の周知など、研修受講者に対し、外部検定試験の受験を働きかけた。

<成果指標に基づく成果及び検証>

本道の課題に即した研修テーマで、継続した研修を実施したことにより、特に指導力に係る「小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定」、「学習評価の充実」に係る項目で割合が高くなった。

■ 課題①に対する成果検証

- ・小中連携したカリキュラムや学習到達目標などを設定している学校の割合が高くなった。

■ 課題②に対する成果検証

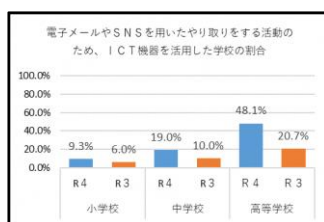
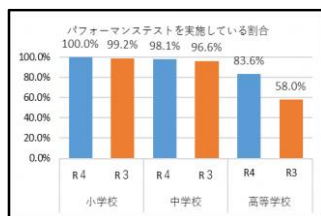
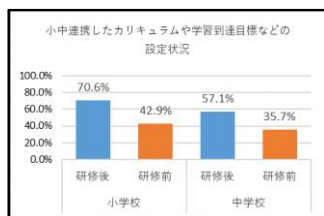
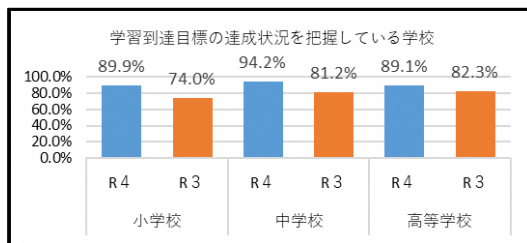
- ・学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合が高くなった。
- ・パフォーマンステストを実施している割合（中、高はスピーキングテスト・ライティングテスト両方実施した割合）が高くなった。

■ 課題③に対する成果検証

- ・児童生徒が、電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動や遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話をする活動を行うために、ICT機器を活用した学校の割合が高くなった。

■ 課題④に対する成果検証

- ・児童生徒の授業における英語による言語活動を行う時間（半分以上の時間、言語活動を行っている）
小：96.6%、中：90.8%、高：78.2%



<今後の方向性>

【主な取組】

■ 小中高の教員による「指導力向上ネットワーク」の構築（課題①～④）

小・中・高等学校の教員がオンラインを活用し、研修や実践交流、好事例の発信・共有等を図ることができる体制を構築

■ 地域の中核教員の育成

各地域の中核となる小・中学校の英語担当教員を対象として、オンライン形式の研修「E-Lineセミナー」を年3回実施

■ 実践指定校における研究開発、全道の小・中学校への普及（課題①③④）

「E-Lineセミナー」に参加する中核教員が「指導と評価の一体化」、「ALTとの役割分担を踏まえた1人1台端末の活用」、「『CAN-DOリスト』の活用」、「英検IBA、ESGの活用（全道全ての小・中学生を対象に実施）」の4つの研修テーマを設定し、年間を通して実践研究を実施

■ 中高連携による学習評価の効果的な在り方を検討する協議会の実施、全道の高等学校への普及（課題②）

生徒の英語力を適切に評価するためのパフォーマンステストを、高等学校教員、中学校教員、ALT及び指導主事等の協議会の協議員で開発し、効果的な学習評価を行うための参考資料を作成

■ 教員の英語力向上に向けた研修の実施（課題③）

関係団体と連携し、中・高等学校の英語担当教員を対象とした英語力向上に向けた研修「英語力ブラッシュアップセミナー」を実施

【目標指標】

- （小学校）
- ・「英語の勉強は好き」と回答する児童の割合 [90.0%] ※北海道独自調査
 - ・デジタル教科書や1人1台端末を活用し、興味・関心を高め言語活動の充実を図っている教員の割合 [90.0%] ※北海道独自調査
 - ・「CAN-DOリスト」の形式による学習到達目標を公表している学校の割合 [90.0%] ※英語教育実施状況調査
- （中学校）
- ・CEFR A1以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 [52.0%] ※英語教育実施状況調査
 - ・CEFR B2以上の英語力を有する教員の割合 [50.0%] ※英語教育実施状況調査
 - ・授業中、教員の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合 [100%] ※英語教育実施状況調査
 - ・ライティングのパフォーマンステストの実施回数4.0回 [100%] ※英語教育実施状況調査
- （高等学校）
- ・CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 [52.0%] ※英語教育実施状況調査
 - ・CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 [75.0%] ※英語教育実施状況調査
 - ・授業中、教員の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合 [85.0%] ※英語教育実施状況調査
 - ・スピーキングテストとライティングテスト両方を実施している学校の割合 [100.0%] ※英語教育実施状況調査

成果普及

○中核教員による実践に基づく成果普及資料の作成・周知

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/english.html>